

情報理工学部 SN コース 3 回
自然言語処理第 10 回講義レポート

2600200443-6
Yamashita Kyohei
山下 恭平

Jun 17 2022

1 とく

とく

1, 数学の問題をとく ・ 謎をとく

2, 数学の重要性をとく ・ 神の言葉をとく

解説

1の「とく」は対象がとかれる事により、未知の事柄に対する「答え」が得られる。そのためとかれる対象は、未知のものであることが求められ、また、とかれた結果は一意に定まることが多い。英語では「solve」で訳されることが多い。

- 運動靴の紐をとく。
- 連立方程式をとく。
- この問題はとくことができない。

2の「とく」は自分以外の人物に、対象について「とく」ことで、相手への理解を促す。説明すること。そのため対象は、漠然としたもの、抽象的なものであることが多い。また、とかれた結果により起こる変化は人の心境の変化など、目に見えないことが多い。英語では「explain」と訳されることが多い。

- 説法をとく。
- 世界平和についてとく。
- 駅で謎のおじさんに社会正義についてとかれた。

2 みる

みる

1, とりあえずやってみる ・ 一口食べてみる

2, 映画館で映画ををみる ・ サッカーの試合をみる

解説

1の「みる」は「試みる」であり、何らかの動作、行為を指す。また、行われる動作は、非計画的なものや、テスト段階であることが多い。「みる」というが視覚を用いた動作を指すわけではない。英語では「try」と訳される。

- ノープランで旅行に行ってみる。
- 新しい企画を発案してみる。
- サイズが合うかわからないので着てみる。

2の「みる」は「見る」であり、対象を「見る」つまりは、視覚からの情報を得ることを指す。視覚からの情報を得る行為であるので、「みる」対象はかなり多岐に渡る。今回の例文ではどちらも「観察する、閲覧する」の見るにあたり英語では「watch」と訳される。

- ネットフリックスをみる。
- 熱い戦いをみる。
- 草原で走る犬をみる。